

科目名	哲学	英語科目名	Philosophy	
開講年度・学期	平成27年度・通年	対象学科・専攻・学年	4年全学科	
授業形態	講義	必修 or 選択	必修	
単位数	1単位	単位種類	履修単位	
担当教員	上野 哲	居室（もしくは所属）	講義棟2階	
電話	0285-20-2100	E-mail	tueno@oyama-ct.ac.jp	
授業の達成目標	授業達成目標との対応			
		小山高専の教育方針	学習・教育目標(JABEE)	JABEE 基準要件
	1. 物事を論理的・整合的に見る視点を養い、論理的思考ができるようになること。	①	D	b
	2. 伝統的論理学における長所短所を理解し、思考の論理性を保持できるようになること。	②	B	e
3. 現代の記号論理学で用いられる基本的ツールを使いこなせるようになること。	⑥	E	f	
各達成目標に対する達成度の具体的な評価方法				
到達目標1～3. 前期後期それぞれに実施する中間試験及び定期試験（計4回）において60%以上の得点により達成とする。				
評価方法				
前期後期それぞれに実施する中間試験及び定期試験（計4回）の成績：100%				
授業内容				
1. 論理学の目標				
2. 論証の妥当性				
3. 論証の正しさと命題の真偽				
4. 妥当な論証と妥当でない論証の区別				
5. どのように記号化を進めるか				
6. 記号論理学の定義				
7. 帰納的定義と形成の木				
8. 数学的帰納法による証明				
9. 人工言語への翻訳				
10. シンタクスとセマンティクスの区別				
11. 真理値分析				
12. 新しい結合子				
13. 双条件法				
14. 論理的同値性				
15. 命題の記号化				
16. 述語論理のための言語作成と図式文字				
17. 量子子の作用域				
18. 変項の自由な現れと束縛された現れ				
19. 解釈による論理式の真偽判定				
20. 解釈と翻訳の違い				
21. 私たちの会話に含まれる「暗黙の了解」				
22. 存在措定				
23. 会話の含意				
24. 伝統的論理学における4つの基本形とその相互関係				
25. 三段論法の4つの格と大・中・小概念				
26. 伝統的論理学における三段論法の妥当性				
27. 伝統的論理学にとっての難問				
28. 関数としての述語				
29. 多重量化				
30. まとめ				
キーワード	帰納法, シンタクス, セマンティクス, 真理値, 形成の木, 三段論法, 論理的妥当性			
教科書	使用しない。原則的に毎回プリントを配布する。			
参考書	必要に応じて適宜紹介する。			
カリキュラム中の位置づけ				
前年度までの関連科目	倫理・社会			
現学年の関連科目				
次年度以降の関連科目	人間と科学 I / II			
連絡事項				
シラバスの内容に変更があった場合は受講者に対して速やかに説明する。				
シラバス作成年月日	平成27(2015)年2月25日			